

名大医学部学友時報 2025 8

目次

1. 令和7年学友会評議会を開催	(2)	6. 懐かしき日々	赤松 秀輔	(10)
2. 人事トピックス	川口 晃司 (3)	7. ご寄稿のお願い		(11)
3. 新病院長に聞く	玉中 修治 (4)	8. 叙勲受章申告のお願い		
	丸井 伸行 (5)	9. 第34回基礎医学セミナー研究発表会授賞式		(12)
	関谷 正徳 (6)	10. 令和7年度(2025年度)名古屋大学医学部学友会		
	田中 俊郎 (7)	支部総会とインターネットページ支部紹介のお知らせ		(15)
4. 医学部OBからの書簡	門松 健治 (8)	11. 第116回名古屋大学医学部学友大会ご案内		(16)
5. 海外留学体験記	藤本 裕基 (9)	12. 編集後記		



鶴舞キャンパス 航空写真

◆◆◆◆◆ 令和7年学友会評議会を開催 ◆◆◆◆◆

名古屋大学医学部学友会は、令和7年7月5日（土）、医学部鶴友会館2階大会議室において、令和7年評議会を開催した。会議は対面とWeb会議によるハイブリッド形式で行われ、評議員及び陪席者の出席のもと、各議案の審議と報告が行われた。

当日は、対面で丸山副会長、宇野副会長、西口庶務部長をはじめとする評議員24名が出席し、Webでは勝野会長、八谷会計部長を含む評議員11名が参加。委任状による出席者は40名で、評議会としての成立要件を満たした。陪席者として西尾耳鼻咽喉科学准教授も同席した。

会議は勝野会長の開会宣言により開始された。議事に先立ち、会の慣例に従い、議長及び副議長の選出が行われた。今回は支部から議長、名大内から副議長を選出する順番にあたり、宇野名古屋支部長（副会長）が議長に、西口庶務部長が副議長にそれぞれ選任された。

続いて、勝野会長による会長挨拶、丸山副会長及び宇野副会長による副会長挨拶が行われた。

その後の議事では、まず令和6年度決算及び令和7年度予算についての審議が行われた。宇野議長の提案に続き、八谷会計部長が資料に基づいて説明を行い、出席評議員による審議の結果、決算及び予算案はいずれも承認された。

次に、名古屋大学医学部学友会会則の一部改正についての審議が行われた。宇野議長の提案に基づき、勝野会長が資料に基づいて改正内容を説明した後、改正案は承認された。

続いて、令和7年度名誉会員の選出が審議された。宇野議長が提案を行い、資料に基づき、名誉会員の推薦要件を満たす4名（※1）について説明がなされた。審議の後、全会一致で承認された。

報告事項においては、まず会務に関する報告が西口庶務部長から行われた。資料に基づき、令和6年度に開催された各支部総会の内容が報告された。次いで、令和6年度第115回学友大会についての活動報告及び会計報告が行われた。

さらに、西尾耳鼻咽喉科学准教授から令和7年度第116回学友大会についての案内があり、10月11日（土）に名古屋観光ホテルにおいて開催予定であることが報告された。

また、坂口中国四国支部長から、令和7年2月に発足した中国四国支部について報告があった。

その後、宇野議長から新評議員17名（※2）のうち、会議に出席した13名の紹介があり、各人が自己紹介と挨拶を行った。

続いて、令和6年度中に逝去の報告があった27名（うち会員19名）と、本年5月7日に逝去された加藤延夫

名誉会員（名古屋大学第10代総長）について報告され、1分間の黙祷が捧げられた。

最後に、宇野議長より閉会の宣言があり、すべての議事を終了した。

今回の評議会では、予算や会則の改正といった学友会の運営に関わる基本事項に加え、新支部の発足や今後の行事予定など、多岐にわたる報告と審議が行われた。各議案は所定の手続きを経て承認され、今後の活動方針が明確化された。

※1：新名誉会員（4名）

加納 忠行 東濃支部長	小寺 泰弘 名誉教授
加藤 克彦 名誉教授	飯高 哲也 名誉教授

※2：新評議員（17名）

名古屋支部	立松 美穂
尾北支部長	河野 彰夫
岐阜支部	藤原 道隆
飛騨支部長	毛利 喜洋
三重県支部長	田中 孝幸
中国四国支部長	坂口 剛正
中国四国支部	小川 恵子
機能組織学教授	桐生寿美子
消化器外科学教授	神田 光郎
形成外科学教授	橋川 和信
麻酔・蘇生医学教授	秋山 浩一
分子遺伝学教授	中沢 由華
データ駆動生物学教授	本田 直樹
先端医療開発部教授	橋詰 淳
薬剤部教授	池末 裕明
神経性調節学教授	笠井 淳司
精神病理学・精神療法学教授	岡田 暁宜

（文責：学友会事務局）



人事トピックス

三重大学大学院臨床医学系講座呼吸器外科学

教授 かわぐち こうじ
川口 晃司

〈経歴〉

1998年3月 名古屋大学医学部医学科 卒業
1998年4月 愛知県厚生連江南昭和病院(現・江南厚生病院)
2003年4月 愛知県がんセンター中央病院胸部外科
2005年4月 名古屋大学大学院医学系研究科胸部外科
2006年4月 愛知県がんセンター研究所分子腫瘍学部
2009年4月 名古屋大学医学部附属病院胸部外科
2013年2月 イタリア Institution of European Oncology
2013年4月 名古屋大学医学部附属病院呼吸器外科
2020年4月 三重大学医学部附属病院臨床研究開発センター
胸部心臓血管外科
2025年4月 三重大学医学部附属病院呼吸器外科教授

〈業績〉

Kawaguchi K, Ogura T, Kaneda S, Watanabe T, Soh J, Hashimoto K, Sakakura N, Okazaki M, Mori S, Hashimoto M, Fukumoto K, Miyajima M, Yoshida S, Moriyama S, Tamaru S, Takao M. A prospective multi-institutional study to verify the non-inferiority of postoperative pain in robot-assisted thoracic surgery in comparison with video-assisted thoracoscopic surgery for lung cancer: The Japanese RATS interest group 01 (J-RATSIG 01). Lung Cancer. 2024 Oct;196:107961.

Kawaguchi K, Kaneda S, Ito D, Shimamoto A, Takao M. Robotic-Assisted Muscle-Sparing Chest Wall Resection Without Thoracotomy: Tips and Benefits for Lung Cancer Patients With Chest Wall Invasion. Ann Thorac Surg Short Rep. 2024 Aug 24;3(1):190-192.

Kawaguchi K, Ito A, Kaneda S, Kawaguchi T, Shimamoto A, Takao M. Two different methods of bronchial dissection and coverage in robotic bilobectomy for advanced lung cancer. Asian J Endosc Surg. 2023 Jan;16(1):147-151.

2025年4月1日付にて三重大学胸部心臓血管外科教室から呼吸器外科が分離独立し、初代教授を拝命いたしました。名古屋大学医学部学友会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は5年前に木曾三川を越えて三重大学に異動しました。ちょうどコロナ禍に入った頃であり、歓迎会もなく周囲は皆マスク着用で、慣れるまでに時間を要しました。また名古屋から見れば三重はご近所さんと思ってましたが、三重自身から見ると東海地方だけ中部ではない、近畿地方だけ関西ではないというどちらにも属しない感があり、また県民はお伊勢さまの御膝元という自負を強く持っています(伊藤という姓が多いです)。

三重大学胸部心臓血管外科は非常に伝統があり、そのなかで呼吸器外科は少数派でしたが、この5年間で医局員が増え、女性も入局し、業績も心臓外科と肩を並べるまでになりました。そうしたことで呼吸器外科教室の新設を同門会や大学にも承諾してもらえました。名古屋大学では2013年に呼吸器外科教室が創設・飛躍していくのに立ち会うことができましたが、ひと回り遅れて三重大学呼吸器外科教室も発進いたします。

三重大学呼吸器外科は特に女性が働きやすい環境を整備していく所存です。これからの教室と外科医に求められるのは、手術技術を磨く(Art)だけでなく、研究学問の尊重(Philosophy)、それからチームを思いやる心(Humanity)だと思っています(第61回関西胸部外科学会で会長横井香平前教授が大会テーマに掲げられました)。医局というのは部活ではなく、専門家の集まりです。例えばお酒を飲めない人に配慮して“飲み会”ではなく“食事会”にするとか、後輩にも呼び捨てせず敬意をもって接するなど、相手を思いやる心を促したいと思っています。これはノンテクニカルスキルの1つで、チーム医療には非常に重要です。また人員不足ですがあえて入局制限をします。責任をもって育てるために誰でもウェルカムではなく、働き場所がきちんと確保できる程度の人員のみ募集しようと思います。

三重大病院はとても働きやすく、何か提案するとすぐに上層部に声が届くように感じます。国立大学では初のダビンチSP導入のおかげで私たちも「国内初の胸を切らない肺がん手術」「小児に対する世界初?のダビンチSPによる単孔手術」を実施でき、メディアにも取り上げられて遠方からも患者さんが来られるようになりました。また三重県地域医療介護総合確保基金事業に採択され、「DXを利用した遠隔手術支援によるがん手術の均てん化事業」を令和5年度より開始しました。これは県民が地方でも質の高いがん手術を受けられる体制の構築を図るために病院間での遠隔手術の基盤となる通信環境整備をするというもので、大学病院の手術を地方病院に居ながら見学できる、院外サーバに保存された他院の手術ビデオを学習目的で閲覧できる、地域病院でロボット手術を開始する際に大学から遠隔指導する、といったことが可能となりました。本事業は三重大オール外科が賛同し協力してくれています。その他にも医師にiPhoneと教室に数台iPadが配られ、自宅からでも電子カルテにアクセスでき処方まで可能であり、胸部外科も病棟当直を廃止してオンコール体制としました。

昨今病院経営の悪化に加え、人口減少と高齢化、地域医療格差と医師不足、働き方改革への対応など、呼吸器外科においても例外ではありません。そうした課題にしっかりと対応しつつも、最先端のロボット手術、DXを利用した遠隔教育など、時代をリードしていくチームを作っていきたいと考えています。ご指導とご鞭撻の程よろしく願いいたします。

最後に、三重県は伊勢までと思っていましたが、実は半分にも至らず、さらに南部には尾鷲、熊野、御浜、紀宝と風光明媚な街が続いて新宮につながります。ぜひ三重までお越しください。

新院長 に 聞 く

愛知県済生会リハビリテーション病院

院長 たまき 玉木 しゅうじ 修治



—— 病院長に就任された今のお気持ち

一言で言えば「火中の栗を拾う」です。コロナ禍以来、患者の病院離れが深刻でいずれの病院においても同様であると考えますが、全国に展開する済生会83病院においてもそのほとんどが経営難に陥っている状況です。幸いなことに当院はリハビリに特化した単科病院であり、不採算部門は抱えていません。就任以来、如何に無駄を省き、効率よく実績を上げるかを皆で考え、医療の質を担保したうえで職員の生活を維持、改善していくことに注力しています。

—— 病院の特徴

愛知県済生会リハビリテーション病院は地域の脳卒中や骨折後の患者さんのためのリハビリテーションを専門とする病院です。急性期治療を受けられた患者さんが、失われた機能の回復あるいは障害を軽減し、新しい機能を作り上げてその後の生活につなげていくお手伝いをすることが最大の役目です。済生会の理念のもと、それぞれが持っておられる障害の重さやご家庭の状況に応じて、その後の生活が少しでも良質なものとなるように真剣に考え、患者さんに寄り添います。医療と介護が一体となって地域の皆さんの健康に向き合うことが求められています。地域の急性期病院、医師会や福祉機関と協力しあうことで当院はその一端を担いたいと考えています。

2012年に愛知県済生会病院（急性期）から愛知県済生会リハビリテーション病院へと一大変換を遂げ、現在、病床数199床、130名を超えるセラピスト、110名を超える看護師・介護士を擁する愛知県下、最大の回復期リハビリテーション病院へと生まれ変わりました。

—— 今後の展望や取り組み

当院は循環器関連の医師が多く在職しており、心臓リハビリテーションの開始に向けての取り組みを開始しました。また通所・訪問リハビリテーション部門を更に充実し、患者さんのスムーズな社会復帰と在宅復帰をめざし、急性期医療と生活期を結ぶ架け橋として、地域の皆さんがお一人でも安心して暮らせるようリハビリテーションを通して寄与します。またDXが必要と考えておりそれを推進します。

—— 卒業研修への取り組み

残念ながら研修医の受け入れは行っていません。

—— 学生へのメッセージ

学友時報の原稿依頼を受け、2011年の「以心伝心」を思い出しました。大垣市民病院で日夜、心臓手術に励んでいたところで、記事を読み返し当時を懐かしく思い出しました。時は流れ、価値観も大きく変わったことも承知しています。それゆえ、術後、ICUのbed sideで寝起きしてきた老・心臓外科医の戯言と聞き流していただきたい。eliteとはどういう人間をいうのでしょうか。社会から受けた恩恵を何倍にもして社会に還元できる人であると考えます。そのためには確固たる使命感を持たねばなりません。使命感を抱いているかどうかで人の人生は変わるものです。医療は何か製品を作り出す仕事ではなく典型的な労働集約型産業であり、「work life balance」という対立構造にはいささか違和感を覚えます。そうではなく仕事と生活を調和させる「work life harmony」の考え方（amazon創始者Jeff Bezos）に共感します。仕事に没頭し、医療従事者としての喜びを感じることでprofessionalとして成長し自信を深め、それが自己満足にとどまらず家族や社会への貢献を通して生活全体を豊かにする。また、そのことが仕事に良い影響を及ぼす好循環を生むという考え方です。仕事自体が目的となるような生き方でしょうか。さて、昨今の「働き方改革」は、それとは真逆の生活を自ら実践し、後輩にも指導してきた者からすると、天を突き抜けんと切に願い、労苦を惜しまぬ決意を抱いている人間をその他大勢のlevelに無理やり引き下ろそうとする企てに思えてなりません。学生諸君には確固たる信念・使命感をもってeliteたるべく努力されんことを切に望みます。



愛知県済生会リハビリテーション病院

新院長
に
聞
く

労働者健康安全機構 中部ろうさい病院

院長 丸井 伸行



—— 病院長に就任された今のお気持ち

私は長く中部ろうさい病院に勤務した後に一旦退職して、地方の僻地指定を受けている地域の病院で内科医として2年間勤務しておりました。人口4万人の地方都市ですが年間1000人ずつ人口が減少し続けており、市の周辺には限界集落化が進んでいる地域もありました。多くの若い人たちが都会へ出て行かれ、超高齢独居、超高齢老老介護家庭も多く、いわば高齢化の先進地域でした。内科の急性期病棟に70歳代以上の入院患者しかいない日もあり、一旦入院すれば自宅に戻れない方が多く住んでおられました。

その中で勤務した病院は明るい雰囲気の仕事やすい職場でした。常に人手が足りない状況でしたが地域研修などで派遣された専攻医の先生たちとワンチームでまわって診療に参加していました。お陰で内科医として充実した2年間を過ごすことができ、とてもよい経験を積むことができました。

この度、縁があって院長として中部ろうさい病院へ戻ることになりました。名古屋市南部においても高齢独居、老老介護の問題は日常の問題として避けては通れなくなっています。各専門領域を備えた病院であれども、高齢化を含めた各々の患者さんの背景に充分配慮した診療が必要になっています。このため外科系、内科系すべての科において総合力を備えた診療が必要と感じております。これまでの経験を踏まえて名古屋市南部の地域医療を支えるための診療体制を充実してまいります。

—— 病院の特徴

名古屋市南部の港区において昭和30(1955)年に開院し、今年で創立70周年を迎えました。労働省関連の病院として労災疾病に対応することを目的に設立されました。現在は独立行政法人労働者健康安全機構という厚生労働省が所管する法人に属し、全国32病院の中の基幹病院の一つです。

名古屋市南部の二次救急病院として救急車搬送は年間6000台を超え、地域の期待に応えるとともに専門診療を充実させた診療体制をとっています。働く人達への支援として病気にかかり治療が必要な患者さんへの就労支援も行っています。

—— 今後の展望や抱負

今後迫りくる超高齢社会に対応し必要な医療を提供できる体制を整え、名古屋市南部の中核病院として運営し、急性期疾患だけでなく各診療科において特色ある診療を

提供してまいります。加えて良き医療人を育てることを目標として各部署で取り組みを続けていきます。働くスタッフが満足できる職場環境を整える事は非常に大切であり、その職場環境が整った上で幅広い診療に応じていく必要があると考えています。

—— 卒後研修への取り組み

卒後臨床研修においては、各科ローテーションを軸にして、それを横につなぐ研修・業務として救急振り返り、救急症例検討会ならびに講義、ランチ先生の病歴、身体所見講義、感染症青木眞先生講義、リウマチ疾患関連の外部の先生の講義などを開催しています。時間外の講義もあります。院内の勉強会もさかんです。超高齢社会に向けて「総合力を重視した専門医養成」を目標に引き続き学ぶ機会を充実させていきます。

—— 学生へのメッセージ

大学での学業は国家試験準備を含めて厳しいものがあると思います。ただ大学から初期研修医にかけて共通の課題であるプロフェッショナリズムに関しては主に卒業後に身に付けていくことになると思います。働き方改革が導入され初期研修医の勤務時間の調整もなされていますが、プロフェッショナリズムを身につけるためには、知識、技術、態度のどの面においても不足する点をただちに自ら学ぶ自己研鑽が必要です。その積み重ねがあって医師として高い社会的評価を受けることができることを理解してください。そのためには初期研修医からバランスのとれた研修生活を送ることが必要です。同期と良いチームを作って2年間を乗り越えることを目標としてください。



労働者健康安全機構 中部ろうさい病院

新院長 に 聞 く

中津川市民病院

病院長 **関谷** せきや **まさのり** まさのり **正徳**



—— 病院長に就任した今の気持ち

地方の医療機関は、医師や看護師の慢性的な人手不足、高齢化による医療需要の増加、そして医療財政の逼迫という課題に直面しています。中津川市民病院も例外ではなく、責任の重さを痛感しています。地域の皆様が安心して医療を受けられる体制を維持・強化するため、職員と力を合わせて取り組んでまいります。

—— 病院の特徴

名古屋市立の小学校を卒業された方なら、「野外教育センター」合宿として馴染みがある中津川市は、岐阜県の東端に位置する人口73,000人の地方都市です。しかしながら、大きさは東西28キロメートル、南北49キロメートル、総面積676.45平方キロメートルで岐阜県内6番目に広い市です。名古屋市が326.46平方キロメートルなので2倍以上の広さです。このような広い市ですが、市内はおろか、近隣にも当院以外に急性期総合病院はなく、隣の恵那市や長野県の南木曾町、大桑村など半径約30キロメートル、13万人の診療圏の2次救急まで対応する重要な中核病院です。

また、災害拠点病院としての重要な役割も担っていて、災害派遣医療チーム(DMAT)も医師4名をはじめ計14名の隊員が所属しています。

—— 今後の展望や抱負

総務省から出された2050年までの市町村ごとの人口統計によると、中津川市は東濃5市(他は多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市)の中で最も人口減少率が少ない市となっています。この推計はリニア中央新幹線の影響は考慮されていません。この統計の年齢別人口推移から医療需要を計算すると、2025年から2030年前後がピークで、2040年までは横ばいから微減で推移することになります。ただ、中津川市近隣の自治体を分析すると、各市町村の人口減少が大きく、その影響で当院の医療需要は5年間で1~2%程度のゆっくりとした減少が続き、2045年以降は顕著に減少すると予想されます。これらの推計から、当院の方針は中津川市単独で考えると、病院の建て替えは必要だが、病床数は現在と同程度の規模でよいと考えます。しかしながら、近隣市町村の状況を考慮すると、医療機能の集約を図り、医療効率を高める必要があります。全国で病院の統合の事例や計画を見聞しますが、円滑に進むことは難しく時間をかなり要しています。中津川市は恵那市との医療機能の統合が考えられますが、今から始めても10年から20年かかること

も予想されます。おそらくリニア中央新幹線がそのところには開業しているはずですが、岐阜県駅(仮称)が中津川市に出来るので、間に合うよう県や国にも後押ししていただくことを期待しています。

以上、今後の展望や抱負を述べましたが、それまでに医師や看護師などの人材が減ってはならず、職員の維持・確保を継続し発展させなくてはなりません。私の在任中の仕事はこれに尽きると考えています。

—— 卒後研修への取り組み

今年度の初期研修医は医科12名、歯科1名を受け入れています。専門医研修に関しては、内科、外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、病理、口腔外科の認定ならびに関連施設であり、他にも専門領域の修練施設として登録されています。

—— 学生へのメッセージ

医学生の皆様へ。先日、がん患者の診察での会話を主治医とAIドクターでどちらが良かったか、患者へのアンケート調査が報告されていました。結果は、AIドクターは先ず「辛かったですね」「頑張りましたね」など患者の状態や状況に理解と共感を表す言葉をかけたのに対し、主治医の多くはそれらの言葉はなく、満足や安心の項目でAIドクターが勝っていたようです。

医療は知識や技術だけでなく、人を思いやる心に支えられています。特に地方医療の現場では、限られた資源の中で「その人の人生にどう寄り添うか」が問われます。そのためには豊かな感性を身に着けることも大切です。部活動やサークルなどで多くの人と関わったり、音楽や絵画などの芸術や文学などに触れたりしてください。海外の人と接する機会も増えるでしょう。最低限の宗教知識やマナーは勉強してください。期待しています。



中津川市民病院

新院長
に
聞
く

西尾市民病院

院長 田中 俊郎



—— 病院長に就任された今のお気持ち

昨年度の診療報酬改定や人事院勧告による給与費の増大等でどの病院も苦しい経営状況ですが、特に地方の中規模病院はより一層厳しい戦いを強いられている中、この職に就く重責で身の引き締まる思いです。とは言え後述するようにこの地域に無くてはならない病院と自負しておりますので、急性期医療の堅持と新病院（建物が築35年となり近い将来建て直しが必要）への橋渡しを大目標として任期の間全力で駆け抜ける所存です。

—— 病院の特徴

西尾市民病院は、昭和23年6月1日に開院し、平成2年2月26日に移転新築、診療科目22科、病床数321床を有する西三河南部の中核病院です。「温かい心と確かな技術、めざそう人に優しい医療」を理念に掲げ、第二次救急医療機関、地域災害拠点病院、臨床研修指定病院、愛知DMAT指定医療機関、DPC対象病院となっています。また、病院機能評価認定、卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定を受けています。

西尾市は人口約17万、面積は名古屋市の半分ほどにあたり、且つ佐久島を始め高齢者比率の高い地域を有しているため急性期病院としての役割を果たす一方、地域包括ケア病棟、訪問看護ステーションを設置し、三次救急病院との連携と共に回復期や療養型病院、診療所などの医療機関とも連携して紹介・逆紹介を行い、地域を一つの病院と見なして、在宅や介護施設も含めてシームレスな医療を提供する、地域包括ケアシステムの中心的な役割を担える病院となることを目指しております。

—— 今後の展望や抱負

今年度より導入した手術支援ロボットhinotoriをはじめ放射線治療装置等の各種医療機器の導入により医療の質を向上させていくことで、高齢化が進展する地域ニーズに対応できるよう体制を整え、地域の基幹的な役割を果たしてまいりたいと考えています。

また西尾市は南海トラフ地震発生時に県内で最も大きな被害を受けると予想される地域の一つであり災害拠点病院としてDMATを中心とし行政とも連携した災害医療体制の強化を図って行きます。

—— 卒後研修への取り組み

研修医の定員枠は1学年5名で2学年10名体制を維持しています。決して多い人数では無いためローテートが重複する事無く、経験できる症例数は充分と思います

しマンツーマン以上の指導が受けられます。救急車搬入台数も人数の割に多く、手技を含め早い時期から実践的な症例経験を積む事が出来ます。

また、西尾市は医学生を対象として貸与年数を当院で勤務して頂ければ返還免除となる奨学金制度を設けており、制度発足後に当院で研修した方々の大半が利用されています。今年度名大からは新たに3名が当院で研修を開始しています。興味のある方は是非見学に来て頂ければと思います。

—— 学生へのメッセージ

私は4年生まで全学体育会の部活に所属しており、アメフト部だった同級生と一緒に東山へ練習に通っていました。他にも文科系を含め10名程の同級生が全学部活でした。

昭和の体育会特有の厳しい上下関係や医学部であることが何のステータスにもならない生活の中で得た視野と発想の違いは、医師になってから患者さんや他職種の方々と接する上でとても大きなものとなっている気がします。また、医学部で得た人間関係は仕事上も含め当然貴重なものですが、部活の仲間との関係は今でも大きな財産です。

現在のカリキュラムではなかなか難しいかも知れませんが、皆さんも医学部生活以外の環境を経験されると今後の人生をより豊かなものと出来るのではと思います。また、現在の学生の方々は我々の頃よりも大変よく勉強されていて優秀な方が多く、将来のビジョンも明確に築かれていてそれはとても素晴らしい事なのですが、ビジョン通りに行かなかった場合の柔軟性に若干欠ける傾向が有るように思います。経験上予定通り事が運ぶ事の方が寧ろ少ないように思いますが、特に臨床医はその都度与えられた環境で全力を尽くす事で道は開けてくるように思います。今後医師として歩んで行かれる皆様のご参考になれば幸いです。



西尾市民病院